

計画改定にあたってのアニメ関連事業に関する考え方（案）について

1 アニメ産業への支援にかかるこれまでの経過

(1) 平成13年 杉並区21世紀ビジョン制定 → アニメ関連事業の開始

①アニメ産業の振興のための「アニメの杜すぎなみ構想」

目的 「アニメのまち杉並」の知名度向上、アニメ産業の振興、企業と人材のネットワークづくり（人材育成）、経営基盤強化・事業拡大支援等

○人材育成事業 →アニメ匠塾（平成14年度～）

○経営基盤強化支援、事業拡大支援 →アニメーションフェスティバル（平成13年度～）

②アニメーションミュージアム

・国のアーカイブ機能誘致の先行施策として位置づけ →その後中止

・アニメーションの歴史、制作方法等を体験しながら学ぶ施設

(2) 事業仕分け及び見直し

①基本的な考え方

アニメ産業が持つ特質から、育成・支援には広域的な取組が必要。一方、これまでの取組により、「アニメのまち杉並」の認知度は向上している。このため、「アニメの杜」「アニメミュージアム」については、アニメ産業の育成・支援策としては廃止し、アニメを活用した商店街振興等地域の活性化策として事業を抜本的に見直し・再編する。

②アニメ匠塾（人材育成事業） . . . 22年度で廃止

③アニメーションフェスティバル . . . 22年度から休止

2 計画改定にかかる基本的考え方及び方向性

(1) アニメ制作会社が日本一集積する状況は杉並区の大きな地域特性であり、「杉並区」のアニメ制作会社の拡大・発展を目指すことを念頭に計画化を行う。

(2) 基本的な方向性は、「アニメ制作会社にとってメリットとなる事業」、「アニメ制作会社及び杉並区の双方がwin-winとなる仕組み（にぎわい・商店街活性化）」とする。

(3) アニメ制作は、一般的に数億円規模の費用で、スポンサーなどが参加する「制作委員会」を設置し、作品の著作権に基づくビジネス展開により資金を回収する事業スキームで行われている。このため、直接的な支援は困難であることを前提に、計画化を行う。

3 これからのアニメ産業への取組（案）

(1) アニメーションミュージアム

アニメーションミュージアムを資源とした商店街誘客・インバウンド活用（近隣自治体と連携したブランディング化を含む。）を推進していく。

(2) 人材育成事業

「杉並アニメ匠塾」は、国全体のアニメ振興としてマクロ的な視点に立ち行ってきたが、今後は、就職に直結させる趣旨の事業ではなく、キャリア教育的な視点に立ち、学校の授業や地域イベントなどにおいて、出張ワークショップ（簡易なアニメ制作体験）を用いて、人材のすそ野を広げる観点からの事業を展開し、アニメの普及啓発を図っていく。

(3) 新たな視点でのアニメ産業への支援（フィルムコミッション等）

・この間、区内アニメ制作会社より、アニメ制作の際に、そのイメージを捉える作業（ロケハン）に関する依頼が複数あったことから、「アニメ制作会社からの相談・協力体制の整備」を新たな具体的要素として、計画中に盛り込む検討を行う。

・その他、アニメ制作会社が考える地域連携に柔軟に対応できる体制整備等を図る。